

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 683 2024年
1部60円 9月号
友の会会員は会費に含まれています
発行 東京勤労者医療会代々木病院
院長 河邊 博正
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
<http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi>

核兵器廃絶に一人ひとり声をあげ続けること
一人では小さな力でも協力すれば大きな力に



開会総会には3200人が参加し「核兵器のない世界」を訴えた

「平和」を望むのは全世界同じと実感

今年の原水爆禁止世界大会は広島大会をメインとして開催、代々木病院からは4名の若手職員が渋谷原水協の代表団として現地参加しました。大会前の取り組みでは、事前学習や渋谷平和行進への参加、病院全体での折鶴作成や、代表派遣のための財政活動に旺盛に取り組みました。

「あの日、ヒロシマで」で事前学習

大会参加前の事前学習として、広島電鉄の女性車掌として被爆した体験手記「ヒロシマを生きた少女の話」と、被爆直後に陸軍軍医として想像を絶する数の被爆者を治療、被爆後に襲ってきた放射能被爆を免れたかに見えた元気な人をも蝕んでいく放射能の本当の恐

ろしさに対峙した手記

7月26日、原水禁世界大会に向け、東京各地を進行してリレーする渋谷平和行進が行われ、代々木病院原水禁大会代表の患者サポートセンターの今さんと友の会代表の石



渋谷平和行進へ参加する今さん（写真右端）と石井さん（写真左から2番目）

井さんが参加しました。渋谷の行進団は、神宮前公園で目黒から来た行進団から横断幕を引き継ぎ、次の中継地である新宿区役所まで明治通り沿いを行進しました。新宿区役所で新宿の行進団に横断幕を引き継ぎ、行進を終えました。

参加者の感想

看護師 永野麻鈴



被爆体験を描いた漫画「あの日、ヒロシマで」で事前学習

職員全体で財政活動と千羽鶴作成

代表派遣の職員4名を送りだすための財政活動

羽鶴の作成では、各職場で折り紙を配布し、職員全体で作成しました。

今回、初めて原水爆禁止世界大会に参加しました。始めの開会総会で驚きました。日本に加え、多くの世界中の方々が参加され、核兵器のない世界、平和な世界を望んでいる気持ちは皆同じだということを実感しました。また岩国基地調査の分科会に参加し、実際に戦闘機が飛ぶ姿を見て、騒音に驚きました。空を飛んでも黒く見える大きな戦闘機の姿に、住民が

(2面へ続く)

千駄の萱

平和の祭典をうたうオリンピックが終わった。多くの騒動を残したものの、純粋に競技に打ち込むアスリート達はやはり美しい。一方で人間の行いの中で最も醜いのは言うまでもなく戦争。オリンピック中もウクライナやガザで紛争地

8月4日～6日で原水禁広島大会へ参加しました。4日の開会総会には全3200人が参加し、「核兵器禁止条約を力に、世論と運動の発展で廃絶の展望を切り開く」と主催者報告、被爆者や諸国政府代表の挨拶があり、「核兵器のない世界」を求め、共同を広げることを訴えました。また、各地から草の根の運動と活動報告と交流がありました。5日は青年の広場、被爆者の体験を聞き、平和の大切さを再確認しました。

た。大会終日の6日は、ヒロシマデー集会・閉会総会に参加、国連や各国代表、来賓、平和団体、被爆者などがスピーチし、核兵器の廃絶、日本政府に禁止条約への参加を求め、最後に「禁止条約を力にただちに立ち上がり」と決議が行われました。集会後には、平和公園で、職員や患者さんから寄せられた千羽鶴を奉納して大会を後にしました。

住む場所に墜落でもしたら沢山の命が奪われると感じました。基地がある限り安心して平和に暮らすことが困難だと感じました。今回沢山の方々が声を上げる姿を見たことで、原水爆禁止大会に参加する前と後では自分自身の平和に対する気持ちが大きく変わりました。一人では小さな力でも協力すれば大きな力となります。私たちは小さな力でも戦前夜に似てきたとも違うのはほとんどの国で助け合う心が力を失っていない事。アメリカ力でも日本でも風は変わった。さあこれからだ。

(1)